

2021年度職員自己評価アンケート結果の分析

社会福祉法人麦の芽福祉会 むぎっこ保育園

2021年12月、2021年度職員自己評価アンケートを実施した（16名中13名回答 回答率81%）。○「子ども一人ひとりの存在と人権の尊重」「子どもの生涯の基礎を培う保育園の役割の認識」「児童福祉法の理念に基づいて子どもの生活と健全な発達を保障することが保育園の使命であると理解」「障害のある子もない子も、一人一人のありのままの姿を受け止め、健やかに成長することを願い、インクルーシブ保育を実施」等の《保育の理念・保育観》の項目、○「献立に旬の食材を取り入れ、手作り給食の実施」「食について保育士と給食担当者が意見交換の場を持ち、連携して食育活動を実施」等の《給食・食育》の項目、○「職員の守秘義務の周知徹底」「子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理」等《事務管理》の項目、○「保育中の体調への気配りや怪我等に対する配慮を職員間で確認」という《職員同士の関係》に関する項目は〈概ね達成〉の回答が多かった。

他方、《保育計画・指導計画》に関する項目や《安全点検》《子育て支援》に関する項目では、「できてはいるが、十分でない」の回答が目立つ。すなわち、「保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味の対象の実態を把握して、月・週・日案などを作成している」39%、「月・週・日案などが実際の子どもの姿、興味・関心に合っていたか、という点から自分の保育を評価・反省している」39%、「定期的（毎日）に施設設備・遊具等の安全点検をしている」39%であった。特に保育計画・指導計画づくりに関しては、実践及びその振り返りと計画をどう関係づけていくか検討する必要があるだろう。計画づくりのための時間を勤務時間内にどう確保するのも課題である。関連して、年間最低2回（前期・後期）の保育総括会議を開催する方向を模索したい。また、安全点検については再度体制を見直していきたい。

ところで、子育て支援に関して「できてはいるが、十分でない」の回答が、「保護者が安心して子育てができるよう支援している」58%、「園生活の子どもの様子を保護者や地域社会に積極的に伝えている」50%、「一時預かりで保護者の子育て相談に応じている」については「できてはいるが、十分でない」「できていない」合わせて60%であった。これらはコロナ禍の下、保護者との対面でのコミュニケーション、地域との関係づくりや一時預かり等、制限せざるを得なかったことが関係していると考えられる。

2021年度 職員自己評価 アンケート集計

- 評価 ① a = おおむね達成できている / b = できてはいるが、十分でない / c = できていない
 ② 「評価の根拠・改善方法」欄に自由に記述する。

N=13

1. 保育の理念・保育観

項 目		職員による評価			
		a	b	c	評価の根拠・改善方法
1	保育士、職員全員の一人一人が、むぎっこ保育園の理念や目的に基づいて、子どもが実体験し、自己肯定感を高められるように取り組んでいます。	54%	46%	0%	むぎっこ保育園ならではの保育、子どもへのかかわり方、もっと学んで実践していきたい。
2	保育士一人一人が自己評価を行い、その問題解決のために向上心をもって取り組んでいます。	77%	8%	15%	
3	すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重しています。	92%	8%	0%	
4	児童福祉法の理念に基づいて子どもの生活と健全な発達を保障することが、保育園の重要な使命であると理解しています。	85%	15%	0%	
5	今日の保育園には、入園している子どもの保育だけでなくひろく地域の子育て支援をする、社会的役割があることを意識しています。	69%	23%	8%	
6	障害のある子もない子も、一人一人のありのままの姿を受け止め、健やかに成長することを願い、インクルーシブ保育を実施しています。	85%	8%	8%	
7	保育園の保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識しています。	92%	8%	0%	

2. 保育計画・指導計画・保育内容

項 目		職員による評価			
		a	b	c	評価の根拠・改善方法
1	保育指針のねらい及び内容が、達成できるような保育過程や保育計画になっています。	62%	31%	8%	・いつもその日のあそびを楽しむばかりなので、月案などにも目を通し、ねらいを意識したかかわりももてるようにしたい。
2	保育計画に基づき、子ども一人ひとりの発達の姿や興味の対象の実態を把握して、月・週・日案などを作成しています。	46%	38%	15%	・私自身が子ども一人一人の姿を把握する必要がある。
3	子どもの意欲を引き出し、発達に必要な経験が得られるような環境構成が十分工夫されています。	62%	38%	0%	・子どもたちの発達やI状況に応じてあそびや部屋の環境を工夫している。

4	職員間で、「子ども理解」を深め、お互いの考えについて対話を通して理解し合って、保育しています。	62%	38%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からの発信が少/ないので、気づきや疑問は声に出し、連携したいと思った。 ・もっと対話が必要 ・職員体制がぎりぎり保育していることで、なかなか話をする機会をつくるのが難しい。 ・子どもたちのことを職員間でたくさん話しています。
5	月・週・日案などが実際の子どもの姿、興味・関心に合っていたか、という点から自分の保育を評価・反省しています。	46%	38%	15%	
6	食について保育士と給食担当者が意見交換の場を持ち、連携して食育活動をしています。	85%	15%	0%	
7	献立に旬の食材を取り入れ、ほぼ100%を手作りしています。	92%	8%	0%	

3. 保育園の職員構成・役割分担・研修

1	園長や主任の園務分掌がはっきりとしていて、それぞれの仕事を責任持って行っています。	67%	17%	17%	
2	異年齢保育の特質が生かされた子ども集団づくりが進められ、各お部屋の保育士連携が円滑に行われています。	77%	23%	0%	
3	危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられています。	69%	15%	15%	<ul style="list-style-type: none"> ・今一度確認する必要がある。 ・朝や夕方、職員の人数が少ない状況です。そのときに何かあったらと思います。
4	保育中の体調への気配りや怪我等に対する配慮を職員間で絶えず確認し合っています。	85%	15%	0%	
5	園内外の研修は、計画的に実施されています。	77%	23%	0%	
6	保育に関わる様々な知識や技能の向上に努め、悩みや疑問を解決するため、研修に参加したり専門書を読むなどして自己研鑽しています。	69%	23%	8%	研修に参加したり、専門書を読んだりするが、仕事が忙しかったり疲れたりできないことも多い。

4. 事務管理・運用

項 目		職員による評価			
		a	b	c	評価の根拠・改善方法
1	子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理しています。	85%	15%	0%	
2	職員に園内で知りえた事柄に対しての守秘義務を周知徹底しています。	92%	8%	0%	
3	帳簿類は、適切に記載し、整理保管しています。	83%	17%	0%	

4	定期的（毎日）に施設設備・遊具等の安全点検をしています。	46%	38%	15%	<ul style="list-style-type: none"> ・早出の時など必ず点検するようにはしていますが、足りていないと思う。 ・職員数が少ない中では、十分に管理できないと思います。 ・気づいたらそのときに危険なものは除去したり職員間で情報を共有できるようにしたい。
5	園運営が円滑に行われるように適切に予算を執行しています。	75%	25%	0%	

5. 子育て支援

項 目		職員による評価			
		a	b	c	評価の根拠・改善方法
1	保護者が安心して子育てができるよう支援しています。	42%	58%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ保護者と子どもが一致しておらず、声かけはできていないが、明るい挨拶は心がけている。 ・もっと保護者とのつながりが必要
2	子どもの心身の発達や育児不安等について、気軽に相談できるように育児相談や専門機関との連携を取りながら行っています。	82%	9%	9%	<ul style="list-style-type: none"> ・療育に通っている子どもたちは、りんくなどの先生たちとも、子どもについてもった話をする機会を作れたらと思う。
3	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めています。	67%	25%	8%	
4	一時預かりで保護者の子育て相談に応じています。	40%	20%	40%	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者体制が整っていないことで、一時保育の受入が難しい。 ・十分な話はできなかったと感じている。保護者ともいろいろ話せるように関係を作っていきたい。
5	園生活の子どもの様子を保護者や地域社会に積極的に伝えています。	42%	50%	8%	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で保護者との関わりが少なくなっている。

～以上、各項目評価してきて、全体的評価をひと言（*上記項目以外のことも記入していただいて結構です）～

- ・今年度は、保育者同士でお部屋営家なく子どもの状況や発達、育ちを気づいたときに話したりできて全体の子どもの様子がわかったと思う。また、大人中心ではなく、子どもたち中心に考えたり活動していったので、保育に無理がなかったように感じる。異年齢での良さを感じた年でもあった。子どもが年齢関係なく遊ぶ姿や自分で安心する友だち場所で遊んでいる。
- ・自信を持って積極的にという点が不足してる。これからの課題である。まずは自分から話すことが大事。
- ・研修を受けたり子どもたちと接する中で少しずつかわり方が変わってきている。学べる環境や関わってく下さる子どもたちや宿院の暖かいサポートに感謝しています。
- ・職員の人数が少ない中で、一人一人の職員が「子どもたちのために」といい保育をしたいと頑張ってくださっていることにいつも感謝しています。人数は少ないですが、お互いのことを尊重し合える職員集団になってきていると思っています。私自身もいつも助けられ支えてもらっていることを実感していますが、その反面、体制が整っていないことで、できない活動や制限をかけてしまうことがあります。
- ・職員の役割に応じて自己評価表を作成していただきたいです。どのように返答すれば良いのかわからない問いが多く悩みます。
- ・家庭での子どもの様子の把握、保護者との連携をもっと密にとっていきたい。
- ・職員数が少ない中での勤務が厳しく余裕がない中での日々が続いています。職員が増えることを願います。
- ・職員研修は、素晴らしいと思います。常に子どものことを考えての研修勉強になります。
- ・おひさまの部屋と主に担当するようになり、まだまだ経験や知識が足りない部分は多いが、楽しさがたくさん感じられるようになった。日々の保育の中で、職員で子どもの姿を伝え合ったり、次はこうしてみよう、あれもいいねなどたくさん話をするのができ、子どもたちってすごいな、面白いな、保育の仕事、好きだなと感じながら仕事ができている環境ありがたいです。自分でも、今日はこうしてみたい、こんなことをしてみたいという思いをもっと出していけたらと思います。毎日ギリギリの人数で、どの職員も自分にできることを頑張っていると思います。